今月のことば

Words of the Month

“5年後の自分のあり方”を考えること

～弁理士はどこに向かうべきなのか～

日本弁理士会副会長

吉田　正義

はじめに

私事となりますが，本年度で知財の世界に身を投じて17年，企業のエンジニアとして働いていた年月とちょうど同じ長さを知財業界で過ごしてきたことになります。この節目を機会に，私見が多くなりますが，これまで何を考えて進んできたかを振り返りたいと思います。

1．5年後の「自分のあり方」を想像すること

手元にある自身のメモ帳を眺めながら，強く感じることがあります。

「なりたい自分になるため，5年後の自分のあり方を考えること」の重要性です。「コロナ禍」が，時代の針を早めている現在，その考え方がますます必要になっていると感じます。

会社の仕事は，楽しくやりがいもありましたが，組織にとらわれない生き方がしたいと考えて退職しました。そのとき，次のことを強く意識していました。とにかく，①好きなこと，②得意なこと，③何か人のためになることをやりたい。

いろいろと考えた結果，弁理士になるという結論に至りました。それからの2年間は，大学院へ進学し，民法・知財法（日米）・経済法・MBAの知識を学びました。充電期間として自由で気ままながら真剣に過ごしました。理系の仕事をしてきたので，文系の知識と思考法を獲得し，文理両輪を強みにしたいと思いました。また，この分野の人脈形成にも努めました。

充電期間を終了して特許事務所に就職しようと意識し始めた頃のメモに，「5年後の自分のあり方」を想像した以下のような記載があります。

・様々な面白い仕事（発明の創造，権利化，契約，訴訟，知財経営コンサルタント，産学連携・スタートアップ企業のサポート…）がある事務所へいく。
・対外的な活動に関して理解のある事務所へいく。
・事務所の経営が学べる環境のある事務所へいく（5年後には，「経営者になる」ことを目指す）。

結局，上記メモの内容を満たすと思われた，地方と都内に事務所を構える中堅事務所に就職しました。一連の就職活動を通じて厳しい現実を実感しました。給料も企業勤めの時の半額以下になりました。でも，いま振り返ると当時の選択は間違っていなかったと思っています。

弁理士の仕事を始めて7年が経った2011年，「5年後の自分のあり方」を想像したメモには以下のような記載があります。

① 事務所を開業する。
　・事務所のビジョン
　⇒『**知財で，日本を元気にする！**』
　・事務所のバリュー
　⇒『**お客様が感動する仕事をする！**』
② 「権利化業務」と「知財経営コンサルタント」が両立する組織を目指す。
③ パテントミックスを実現する。
　・顧客比率を，大企業：産学連携：スタートアップ＝1：1：1とする。
　・国内：海外の売上比率を，1：1とする。
④ 5年後に法人化する。
⑤ 事務所の長期計画（目安）は以下とする。
　・5年後の人員：10名，売上：1億円以上
　・10年後の人員：30名，売上：3億円以上

このような目標がどのくらい実現できるかは定

かでありませんでした。しかし，機会があるたびに見直し，なりたい自分（自身の目的地）と今の自分の距離を常に意識してきました。

２．弁理士，特許事務所について思うこと

「5年後の自分のあり方」を考えるうえで，いま，弁理士，特許事務所について思うことは以下となります。

（1） スタートアップの経営者の考え方

仕事柄，多くのスタートアップの経営者の方と話す機会があります。いつもこれら経営者の熱い想い／揺るがない「意志」の強さに圧倒されます。

特に，つぎのテーマに挑戦している経営者からは大きな影響を受けました。

・新しいエネルギー源を創って世界を変える
・廃棄物から新材料を創造し，産廃業界の構造を変える
・半導体新デバイスで消費電力を１／50にする
・「量子コンピューター」の実用化を本気で考える
・新規材料（トポロジカル物質）で，世間の「便利」の概念を変える

これら経営者の熱い想いの背景にある共通点は，常にユーザー視点であることです。そして，「夢（「意志」）」は，明確で大きいほど人を魅了することにも気がつきました。弁理士にとって重要な学びだと思います。

（2）「弁理士」という仕事の魅力

10数年前までは，「問題点（課題）の解決手段」をみつけられる人が，仕事ができる人だと云われてきました。AI，IoT，5Gなどの新技術の登場が人間の生き方を大きく変えています。仕事に対する考え方も大きく変わってきました。現在は，「問題の解決手段」というよりも，**「問題がどこにあるのかを考えること」**の方が重要になっているように感じます。これは，弁理士にとっては非常になじみのある思考方法であり，弁理士，知財業界のプレゼンス向上に資する考え方だと思います。

また昨今，自分の可能性を広げる手段としての**「リベラルアーツ」**が注目されています。これは，基本的に，探求心をもって，読書，旅（他人との接触），人の話を聴くこと等を習慣化することで得られるとされています。私は，この「リベラルアーツ」を得るのに最も適した仕事は，「弁理士」であると確信しています。発明のヒアリングにおいて，発明が事業にとって重要であればあるほど，将来のノーベル賞級の発明のような基礎出願であればあるほど，発明者は，必死に説明してくれます。2時間のヒアリングが真剣勝負の場となります。弁理士も必死に頭を使って考えます。この繰り返しが，結果として，「リベラルアーツ」を得る絶好の機会となります。また，色々な発明に関して話を聴くことは，本当に楽しいです。弁理士は，楽しみながら，勉強の機会が得られて，人に喜ばれるという職業ではないでしょうか。以上が，私が感じる弁理士の仕事の最も大きな魅力です。

（3） 特許事務所経営について思うこと

「両利きの経営」は，ここ数年コンサルタント業界でよく耳にするようになった言葉です。特許事務所に当てはめると，従来からの専権業務（出願，権利化）の仕事を**「深化」**させることと同時に，新しい弁理士の仕事を**「探索」**し，その**両者のバランス**を重要視する経営がそれにあたると思います。その「探索」の結果出てきた新しい分野が，不競法，著作権，経営，標準化，農水知財等であり，新しい仕事の形態が「知財経営コンサルタント・その他」と云うことになると思います。

「知財経営コンサルタント」に関しては，その重要性が云われてかなりの月日が経ちます。その対象が，スタートアップの経営者や，企業の新規事業の立ち上げに合わせた知財戦略を考えたい事業責任者であったりする関係上，通常の権利化業務とは異なるスキルが必要になります。また，ここ10年の経験から，知財経営コンサルタント業務を単独組織で進めることには限界があると思います。経営戦略，事業戦略に資する知財戦略が求められる以上，コンサルタント業務と合わせて権利化業務のしっかりしたバックアップシステムをつくることが重要です。今後，そのような事務所が増えることを期待しています。

３．結びとして～今後の５年，今考えていること

弁理士が，あらゆるユーザーに対して，知財のプラットホームを提供し，知財にまつわる様々な利益を得ることができる特許の国を構築する。**知財で，日本を元気にする。**そしてそんな思いをもつ仲間を１人でも多く作る。これらが，私の今の夢です。「特許の国」については，Patentiaとい

う言葉を創り，Patentia 構想を練りつつあります。

会員の皆様，弁理士会，知財業界全体が，5年後にどうありたいかを考え，明確な「意志もしくは目的」を持つ契機となるように，微力ながら全力で取り組みたいと考えております。ご指導とご鞭撻のほど，よろしくお願いいたします。

「Where there is a will, there is a way.」
(「意志あるところに道は開ける」)
アルベルト・アインシュタイン

「幸運は用意された心のみに宿る」
(le hasard ne favorise que les esprits préparés)
ルイ・パスツール

参考文献

・「ニュータイプの時代」山口周著
・「自由になるための技術　リベラルアーツ」山口周著
・「あり方で生きる」 大久保寛司著
・「起業は意志が10割」 守屋実著
・「両利きの経営」 チャールズ・A・オライリー他著
・「コーポレート・トランスフォーメーション　日本の会社をつくり変える」冨山和彦著
・「世界標準の経営理論」 入山章栄著